

市長が行く

茂原市公共施設白書について

No.68

茂原市長 田中豊彦



このたび、茂原市では「茂原市公共施設白書」を作成し、市民の皆さまと共に今後の公共施設の在り方について、検討していくことになりました。かつて茂原市では、高度成長期からの社会の変化や、本納町との合併などによる人口の増加に伴い、多くの公共施設を整備してきました。しかし、これらの内、築40年以上の公共建築物が全体の32%、築30年以上40年未満のものが全体の31%となっており、老朽化が進み、今まさに改築や大規模な改修が必要な時期を迎えています。

その一方で、人口の減少はどんどん進行し、2000年に9万3779人だった茂原市の人口も、2040年には7万2519人にまで減少するということが推計されています。

人口の減少は、市税収入の減少につながりますが、それと反比例するかのよう

に、歳出の約半分を占める義務的経費（任意に削減できない経費）は、扶助費（社会保障関連の経費。つまり、生活困窮者、児童、老人、心身障害者を援助するための経費）の増大により、今後も増加していく見込みとなっております。このままですと、公共施設の維持更新費用の確保が、大変難しくなっていくのは間違いないありません。

そこで、現在の公共施設の数や規模、配置などが、今の時代やニーズに適しているかどうかを改めて検討することが必要不可欠となってきました。公共施設の現状と課題を明らかにし、より良い公共施設の在り方を検討していくために、「茂原市公共施設白書」を作成しました。

今後は、検討委員会を立ち上げ、市民の皆さまの参加のもと、「茂原市公共施設等総合管理計画」を策定し、時代に適応した公共施設サービス

の提供を目指していこうと考えています。

先月、この欄で市民会館の改築あるいは新築に触れました。今のこの状態では、可能ではないかと考える方もいらっしゃると思いますが、創意と工夫を重ねれば、出来ないことはないと思っております。そのことも含め、市民の皆さまの多くのご意見をお寄せいただきたく、よろしくお願いいたします。



▲老朽化が進む公共施設